

めいわ かわら版



明和第二保育園 園長

加藤 千晶

2019年4月に明和会に入職した加藤千晶さんは、30年以上、子どもにかかわる仕事に携わっています。現在は明和第二保育園で園長を務めています。過去には様々な失敗を経験してきました。今回は当時のエピソードを振り返りつつ、明和会へ抱いている印象について伺いました。

これまでの経歴と、明和会で働く魅力について教えてください。

最初に勤めたのは幼稚園でした。そこで幼稚園教諭として勤務したのち、保育士として保育園で勤務しました。その後幼稚園教諭・保育士養成校で教員経験を経て明和会に入職しました。明和会では、職員の皆さんがとにかく明るいと感じているほか、和気あいあいとした雰囲気があり、風通しがいい点がお気に入り。また、皆さん働きもので、保育以外の細かい事務作業などにも前向きに取り組んでくれています。

こういった環境があるのは、八谷理事長の明るい人柄が明和会全体をポジティブな雰囲気にしていてからだと思います。私も面接時、2時間半ほど話をさせていただき、「八谷理事長は人と話すのが好きで、明るい方だな」との印象を持ちました。

りと見ることができずから、美しい富士山を目にしては、「また明日から仕事を頑張ろう」と元気をもらっています。

最後に、今後の目標をお聞かせください。

もともと職員同士のコミュニケーションは円滑に取れています。今後も風通しのいい職場を維持できるよう努めていきたいと考えています。園長としての目標は、引き続き職員と毎日一言エピソードを伝え合ったり、個人面談を実施したりしながら、公私問わず悩みを打ち明けられる場所を作ること。これからもコミュニケーションの場を大切にしていきたいと思っています。

一人ひとりと向き合い、明るい職場を作り続けていこうとしている加藤さん。この先も積極的にコミュニケーションを取りながら、仕事に励んでいくに違いないと語っています。

どのレポート用紙が山積みになっていたのです。慌てて発注内容を調べてみると、誤って20年分の量を発注していたと判明。事務処理を行う際は確認を徹底しなければならぬ、そう痛感した出来事です。

仕事をするうえで心がけていることは何ですか。

現在、私は職員の皆さんが作成した書類などをチェックする立場なので、書類をしっかりと読み込み確認するよう心がけています。その際、内容はもちろん、誤字脱字チェックも行っていますが、指摘するのは皆さんのミスを見つけて責めるのが目的ではありません。人間ですから、ときには間違ってしまうこともあるでしょう。だからこそ、「一緒にチェックしていこう」といった気持ちで作業をしています。

この意識を持っているのは、私自身がレポート用紙を誤って20年分も発注してしまった経験があるからです。当時、発注書を事前に上司に確認してもらい、承認を得ていましたが、運悪く上司も私のミスに気がつくことができませんでした。そもそも私が誤りに気づけば防げた事態ですが、同時にダブルチェックの重要性への気づきも得た体験だったと思っています。しかし何より、保育士たちと毎日たくさん話せるわけではないので、それを補う意味でも毎日の日誌にてコミュニケーション



印象に残っているエピソードはありますか。

2点あります。ひとつは、約20年前に1歳児クラスを担当していたときのことです。ある夏の日に、園庭の木にとまったセミを子どもたちが見つけ、私が捕まえたことがありました。すると、1人の子どものセミを口に入れてしまい、その予期せぬ行動にとても驚いたことを覚えています。その子の口からセミをすぐに取り出したので、誤って食べてしまったような事態には発展せずに済みましたが、「子どもは大人が予想もしない行動をする」と改めて思い知らされました。

2つ目は、約15年に起こした事務作業のミスです。当時、上司からレポート用紙2年分を発注するよう頼まれた私は、普段の使用量から計算して発注業務を完了させました。しかし、後日届いた商品の数量を見て仰天。何と、荷台に乗りきらないほ



<企業情報>
社会福祉法人明和会
■法人認可：1966年11月
■職員数：387人
※2024年1月時点
■問い合わせ先：0538-42-3228

明和会のInstagramはこちらから！



私のテイクオフポイント

慣れないことや初めての業務は、誰でも戸惑うまいかないもの。
今ではバリバリと仕事をこなす先輩方にも、同様に悩んだ時期がありました。
そこで目の前が開けて飛び立つきっかけとなったテイクオフポイントを、3人の先輩に伺います！

入職してから1番辛かった時期は 1年目

頑張ろうという意欲はありましたが、何をしてもうまくいかず、毎日落ち込んでいました。反省点や改善点を考えても思うように解決できず、周りとのコミュニケーションもうまく取れず、心に余裕がなくなり、職場に行くことが苦痛になっていました。

テイクオフポイントは 入職5年目のころ

～「やっておいて良かった」と思うこと～

① 思い切って上司に相談する

「聞くのが恥ずかしい」という気持ちは捨て、「困ったときにどうしたら良いか」「何をすべきか」など、わからないことがあればすぐに上司に相談し、できることから行動していきました。

② 大事なことや発見があればメモを取る

メモに残した内容を後から見直すことで、改善策のヒントとなりました。

③ 思っているだけではなく行動に移す

「こうしてみたら良いのではないか」と思ったことは、思うだけではなく実際に挑戦してみる。行動することで新たな気づきや発見があり、仕事の質が向上していくと思います。



明和第一保育園
保育士
すずき あいか
鈴木 愛佳さん

奮闘している職員へメッセージ

いつも笑顔で楽しくいることで、周りも楽しい気持ちになります。仕事に対する気持ちも前向きになり、成果も出てきます。頑張ってください！



明和苑
課長・生活相談員
おおさき しげあき
大崎 茂陽さん

入職してから1番辛かった時期は 3年目

生活相談員に異動になった年です。初めての経験が多く、業務に慣れない中、施設内で感染症が発生し、ご家族様や事業所の対応に追われた大変な時期でした。

テイクオフポイントは 入職5年目のころ

～「やっておいて良かった」と思うこと～

目の前の問題を一つひとつ確実にこなすこと

もともと知らない方と接するのが苦手な性格のため、ご家族様や他事業所、業者との対応が必要となる生活相談員の業務に戸惑い、苦手意識から対応が難しかったり判断を誤ったりすることがありました。しかし、日々直面する新しい問題を一つひとつこなしていくうちに、より良い選択ができるようになっていったと思います。



あきは寮
生活支援員
うちだ ひさこ
内田 久子さん

奮闘している職員へメッセージ

とにかくコミュニケーション！コミュニケーションを取ることで、高齢の方の日頃の変化にも気付くことができ、それが自信となり成果につながります。

入職してから1番辛かった時期は 1年目

利用者様とのコミュニケーションを難しく感じ、どうしたら安心して信頼してもらえるのかと毎日のように葛藤していました。

テイクオフポイントは 入職4年目のころ

～「やっておいて良かった」と思うこと～

利用者様とコミュニケーションやスキンシップをたくさん取ること

その結果、利用者様の独自の言語や好きな話題などの理解が段々と深まり、人間関係の形成に実感を持てるようになりました。

奮闘している職員へメッセージ

とにかくコミュニケーション！コミュニケーションを取ることで、高齢の方の日頃の変化にも気付くことができ、それが自信となり成果につながります。

施設リレー

ワークスつばさ もみの木分場編

明和会の各施設の近況を紹介する本企画！

今回は、障害福祉サービス多機能事業所「ワークスつばさ もみの木分場」にフォーカスします。自然溢れる環境の、もみの木分場ならではの昼休みの過ごし方や地域のつながりに、ぜひご注目ください！

私が紹介します！！



生活支援員
すずき ちあき
鈴木 千晶さん



鈴木千晶さん (生活支援員) 柴田直子さん (職業指導員)
三木幸絵さん (生活支援員) 鈴木理世さん (サービス管理責任者) 中村多己之さん (生活支援員)

もみの木分場の 良いところ

自然を活かした取り組みと 意欲をキープする工夫

① 自然豊かな環境

森の中にあるため、春は桜、秋は紅葉と季節を身近に感じられます。高齢の利用者様が多く、運動不足になりがちのため、昼休みには施設の周りを散歩。豊かな自然を楽しみながらたくさん歩くことで、運動不足の解消につながっています。



春に作業場の窓から見える景色♪

もみの木分場って こんなところ！

自然豊かな環境で 大手メーカーの下請け 作業などに従事

静岡県森町の山の上に位置している障害福祉サービス多機能事業所で、自然豊かな環境が特徴です。職員はサービス管理責任者1名、職業指導員1名、生活支援員3名の計5名。利用者様は、毎日通所はもちろん、本人の希望する日数だけ通所することも可能です。

主な作業は、内職作業や空き缶の回収・缶つぶしなど。内職では、YAMAHAの下請けとして自動車関連部品の梱包や仕上げ作業を行っています。土曜日の開所日には1～2時間のレクリエーションを実施。初詣などの季節に合わせた行事や、利用者様の誕生日会などを行って親睦を深めています。



企業から頂いた作業の準備でシール貼りをしています

毎月発行しているもみの木便りの作成をしています

皆さんに知ってほしいこと

「もみの木分場」の場所と歴史の長さ！

周りに目印がなく、場所を知らない方が多いため、多くの皆さんにももみの木分場の場所を知っていただきたいと思っています。利用者様の通所のきっかけとして最も多いのは、森町役場からの紹介。一番長く通所されている方は50歳で、通われて31年と歴史のある施設です。

利用者様が部品の袋入れや袋留め(ホッチキス留め)、職員が確認のため計量をしています。

イチオシ職員はこの人！

笑顔がすてきな期待の星！

みき ゆきえ
三木 幸絵さん

明るくハキハキしていて、利用者様とも笑顔で接しているところが素晴らしいと思います。福祉の資格も持っているため、これからますますの活躍を期待しています。

今後の目標

町内のつながりを活かし、新規利用者様の獲得を目指す！

現在通所されている利用者様は50～60代の方がメインです。毎日の作業には体力が必要なため、今後は若い利用者様を増やしていきたいと考えています。そこで社内報や「もみの木だより」というお便りを毎月配布し、地域の皆さんに知っていただくための活動を行っています。「もみの木だより」は町内会で回覧しているため、ときには地元の方に声をかけていただくことも。新規利用者様の獲得の目的のほか、利用者様に対する地域の理解にもつながっています。これから更に回覧の範囲を広げていきたいと思っています。